【アウトプット】

HTML

<!DOCTYPE html>

という 必須のコードはコードをrendering（抽象的なデータ集合を元に、一定の処理や演算を行って画像や映像、音声などを生成）するために必要な文言。

<html lang="ja">

Lang（=language）は「要素の中で使用する言語の種類を明示する」という意味。

例）日本語→ja、英語→en、フランス語→fr、ドイツ語→deなどがある。

<head>

<head> は機械処理のための情報を保持するためのものであり、人間が読むためのものではありません。

  <meta charset="UTF-8">

<meta>というのは「META-information」の略で、俯瞰した目線で「Webページにはこんなことが書かれていますよ〜」と伝えるもの。

「charset」というのは「character set」の略で「文字集合（文字セット）」を意味している。

「文字符号化方式（文字化けを防ぐ方法）」の一つが「UTF-8」。

  <link rel="stylesheet" type="text/css" href="style.css">

linkタグは「スタイルシート（外部CSSファイル）を読み込む」ためのもの。

relはrelationの略でファイルとの関係性を、hrefで そのファイルがある場所（URL）を指定します。

<body>＜/body>

HTML 文書のコンテンツを示す要素で、<body> 要素は文書中に一つだけ配置できます。

<header>

見出し要素だけでなく、ロゴ、検索フォーム、作者名、その他の要素を含むこともできます。

<div class="logo">

<div> 要素は「純粋」なコンテナーとして、本質的には何も表しません。その代わり、 class や id を使用して「スタイル付け」をすることでdivごとに区別可能になる。

<img src="4eachblog\_logo.jpg">

<img> は HTML の要素で、文書に画像を埋め込みます。

src属性 【source attribute】：属性（attribute）の一つで、その場所に外部から読み込む資源（ファイルなど）の所在を記述するもの。通常はファイルのあるURLやパスを記述する。

<ul>

項目の順序なしリストを表します。

<li>

リストの項目を表す。この要素は、その項目が属する順序付きリスト (<ol>)、順序なしリスト (<ul>)、メニュー (<menu>) のいずれかの子要素として配置しないといけない。

<main>

文書の <body> の主要な内容を表します。Bodyは目次、mainは内容と理解すればよい。

<h1>

<h1>–<h6> 要素は、セクションの見出しを 6 段階で表します。<h1> が最上位で、<h6> が最下位です。

    <footer>

<footer> 要素は通常、そのセクションの著作者に関する情報、関連文書へのリンク、著作権情報等を含みます。

CSS

float: left;（例）

float は CSS のプロパティで、要素を包含ブロックの左右どちらかの側に沿うように設置し、テキストやインライン要素がその周りを回りこめるように定義。

padding-left: 40px;（例）

要素の全四辺にスペースを組み込むコード。

clear:left; （例）

要素をその前にある浮動要素の下に移動 (clear) する必要があるかどうかを設定可能。

Java

**Import**

import文は、異なるパッケージのクラスを使用する際に記述する。パッケージ名を省略してクラス名だけでプログラムの中に記述できるようになる。

**モジュール**とは

機器やシステムの一部を構成するひとまとまりの機能を持った交換可能な部品のこと。

**private**

アクセス修飾子の1つである「private」は、同一クラス内でのみデータにアクセスすることが可能となります。

**private long** id;

64ビットで整数値を扱うことができる型である。long型はint型よりも広い範囲

int型の範囲を超える整数リテラルを記述する場合は末尾に「L」または「l」を記述することでlong型の値として扱われる。

event.preventDefault();

submitイベントの発生元であるフォームが持つデフォルトの動作をキャンセルするメソッドです。

Javascript

**Let**

let 文はブロックスコープのローカル変数を宣言します。任意で値を代入して初期化できます。